

## 入選

### 互いに助け合う気持ちを持つこと

香川県 玉藻中学校 3年 古竹 虹穂

まずはじめに、私自身が親切にしてもらった話をします。

私は身体障害があり、左足に装具を履いています。そのため、ほかの人のように走ったり、長時間歩く、立っているなどが困難です。

そんな私がいつものようにバスで通学していると、バスの中は珍しく混んでいて座席に座ることができずにいました。自分から席に座っている人に席を譲ってほしいと言うこともできなくて困っていました。

そのとき、座席に座っていた一人の高校生が私の装具を見て席を譲ってくれました。

私はそのとき、誰かからやさしくしてもらおうというのがどれだけ幸せでうれしいことなのかを改めて感じました。

私もいつかあのときの高校生のように、困っている人には声をかけて助けようと思いました。

次は、私が困っている人を助けたときの話です。学校が休みの日に、私が商店街で買い物をしていたときに、道の端で立ちつくして困っている人を見かけました。その人はカバンにヘルプマークを付けていました。私もヘルプマークを持っていますが、それを持っている人は何かしらの援助を必要としている人です。私はそのことを知っていたので、声をかけました。

しかし、その人は気づきませんでした。そのとき、その人のヘルプマークの裏面が見えたので、見ると、どうやらその人は聴覚障害のある方でした。なので、今度はその人の肩をそっとたたき、手話で「どうしましたか。」と聞きました。

私は独学で手話を勉強しているので、少しなら手話ができます。するとその人は、手話で何か言ってくれましたが、わからなかったので、筆談で話してもらいました。筆談で「〇〇に行きたい。」とその人が言っていて、私もちょうど行く場所だったので、いっしょに行くことにしました。目的地に着いたとき、その人は本当にうれしそうでした。だから私は、勇気を出して声をかけてよかったと思いました。

誰かから受けたやさしさを（次は、私が）と思い、声をかけましたが、もしもあのとき私に席を譲ってくれた高校生がいなければ、たぶん私は聴覚障害の方に声をかけて助けることはできなかったと思います。

最後に私は、このような二つの経験を通して学んだこと、思ったことがあります。それは、相手の立場で物事を考えて行動する気持ちと、ヘルプマークの普及です。相手の立場で物事を考えて行動することができれば、自然と相手の気持ちを思いやって助けることができると思います。

ヘルプマークの普及は、ヘルプマークを町などで見かけた方にも、障害を持っていることを伝えやすいと思います。ヘルプマークを使う方には、目に見えない障害を持っている方もいます。そんな方にも理解の得られる社会にできると思うので、普及してほしいです。だから、互いに助け合う気持ちをみんなにも伝えたいです。